

対談 | 伊藤信義 名古屋学院大学理事長に何う |

2003年8月、名古屋学院大学の新任理事長に伊藤信義氏が就任され1年が経過しました。名中・名高の理事長も兼務され、名古屋学院の将来像をどのように見据えられているか。理事長が目標とする「名古屋学院大学」像とは？

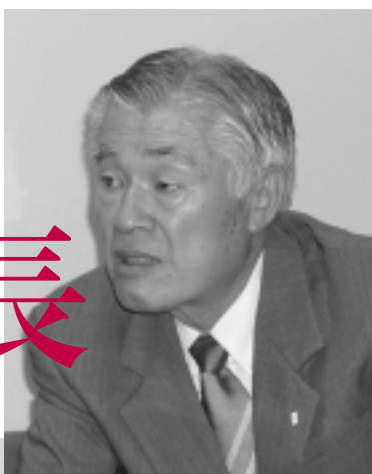
これらをテーマに、伊藤理事長と占部同窓会会長に対談をしていただきました。

個性豊かでコミュニケーション能力あふれる人材を社会に輩出する大学でありたい

—名古屋学院大学理事長に就任されて1年が経過しました。中高及び大学を総合的な視野で指導していくお立場ですが、大学の今後の方向性を聞かせていただけますか。

伊藤理事長（以下理事長に略） 「名古屋学院大学理事長に就任してまだ1年を経たばかりですから、大学理事長としての職務を十全に果たすために日々努めているところですが、ただ、就任して感じたことは、名古屋学院大学の方向性というか目標が5〜6年程揺れていたのではないかとこの点です。少子化による受験生数の減少をはじめ他大学も含めた学部・学科の多様化などが、大学自体の立脚点をかなり変化させてきました。これは本学だけでなく、教育環境全体の変化でもあります。私はこの点に対する本学のポジションを明確化し、建学精神の『敬愛』を背景にした意識の建て直しを図らなければいけないと考えています。その意味では大変な責務があります。」

占部会長（以下会長に略） 「名中・名高の



Nobuyoshi Ito

理事長

理事長も兼務されている伊藤理事長ですが、本紙読者である同窓生の方々に伊藤理事長の人となりを、紹介頂きますでしょうか。」

理事長 「名中・名高を経て東京教育大学（現筑波大学）卒業後、アメリカ・コネチカット

同窓会会長

Kenichi Urabe



大学の大学院で学びました。その後30余年は名古屋市立大学の教育現場で主に教鞭を取り、カンサス州立大学の客員教授を最後に、約40年振りに名中・名高の理事長として母校に戻ってまいりました。名古屋に戻って今年で11年目です。」

—名古屋学院大学との接点はいつ頃からあったのですか。

理事長 「本学開学と同時に本学のバスケットボール部ヘッドコーチに就任し、4年間指導しました。私自身、大学時代はもちろん実業団でもプレーしておりました。今は名古屋市体育協会会長、愛知県体育協会副会長を務めております。」

会長 「スポーツを通して健全な心身を作る、これは教育の原点でもありますね。理事長が目指す教育の原点もやはりそこにあるのですか。また、名中・名高の理事長に就任されて以来、名中・名高の学力がかなり上がってきたと伺っています。」

理事長 「私は文武両道が学生の自分であると確信しております。学問だけでなくも駄目、またスポーツだけでなくも駄目です。学問とスポーツの2本柱が両立してこそ、優れた学生が育ちます。特にスポーツを通して協調性を学ぶことは、学生が社会へ巣立つにあたり大変良いことです。社会生活の基本は協調性であり、人付き合いが上手くできないといけませんから、『健全な肉体に健全な精神が宿る』、これは私の持論です。名中・

出席者
理事長 伊藤信義
同窓会会長 占部憲一
司会
同窓会副会長 須崎英晴